

# 忠類地域振興にかかる提言

平成24年2月1日

幕別町長 岡田 和夫 様

## 忠類地域住民会議

加藤茂樹 ・ 武内悠紀夫 ・ 西川利枝 ・ 山下浩昭 ・ 新井重美

芹澤勇治 ・ 杉本宏道 ・ 菅野能稔 ・ 林中俊雄 ・ 山崎和夫

赤石裕元 ・ 三島まゆみ ・ 内藤 弘 ・ 渡邊靖之 ・ 森 徹

## 忠類地域の発展観光への提言として

平成18年2月に合併してから、忠類地域住民会議は3期6年の任期を経ました。この間、住民の視点、各種団体の立場などから地域の理想像はじめ、各分野において提言を述べ、これまで様々な議論を経た中から各種方面の施策反映に至るなどの足跡を残してきました。第2期の住民会議で議論されたサテライト介護施設の建設などをはじめ、実現または取り組まれたものは各種あるものの、地域の課題は以前にも増して山積しているものと考えます。

昨年10月に公表された平成22年の国勢調査では、幕別町全体の人口が微減としつつも、忠類地域は5年前と比べ165人、9.2%の減という地域の疲弊を顕す結果となりました。

こうした社会情勢の中、忠類地域は南十勝の中ほどにあつて幕別町の中でも南十勝の町村と観光や交流など様々な面で強い関わりのある歴史があります。

また、雄大な日高山脈や豊かな農村景観など、各地域の特色を活かした十勝シーニックバイウエイ南十勝夢街道が忠類を中心として展開しており、南十勝の交流人口拡大へ向けた取組みとして高く評価されたことから、正式にルート指定されたことも記憶に新しいところです。平成26年度には帯広広尾自動車道が忠類まで開通し、更には大樹-広尾間22Kmの早期開通も全十勝をあげて南十勝の町村を道東道まで繋ごうという運動が展開されており、これが実現すると高規格道路が南十勝の経済や観光の流れを大きく後押しすることになります。

しかしながら、こうした道路交通網の整備は、人と物流の活発化・迅速化を進める一方で、通過型の地域を生み出す危険性があることも事実であり、忠類地域も例外ではないと考えられます。この時期にこそ忠類地域を目的地とする仕組みづくりや地域固有の魅力づくりへ、官民あげた挺入れが喫緊の課題となっているのではないのでしょうか。

こうした背景の中、忠類地域は酪農やゆり根の生産などの農業を基軸にした産業に特色があり、商工業と結びつくことで6次産業化への可能性も秘めるなど、観光はもとよりこうした動きにも期待が寄せられているところです。

また、忠類地域は人口が少ないとはいえ、文化・芸術活動をはじめ地域づくりへの取組みも盛んに行われており、近年は既存のイベントに加え地域再発見の取組みなど各分野において新たな動きも生まれ、「ないものねだり」から「あるもの探し」へ、交流人口拡大への取組みに力をあわせ発揮することが期待できる地域であるともいえます。

合併後に策定された第5期総合計画が示す地域の特性を生かすまちづくりや、ひとつの町として一体感の醸成が進められる中、忠類地域が今後も南十勝や幕別町全体の観光振興に大きな役割を担うべく鍵を握っているものと考えます。

そこで、忠類地域住民会議として地域の観光振興などに対する考え方【以下3項目を基本にして】今一度検証し、中長期的な展望に立って今後どうあるべきかを示したいと考えます。

## I 観光部門

### 1. 《観光施設の充実と支援》

道の駅周辺はキャンパーや観光客集客の重要なエリアであり、近年は地域住民や施設関係者による集客拡大への取り組みも見られる。こうした動きに呼応して、周辺での滞留時間を延ばすよう住民活動、民間力（道の駅周辺4施設連絡協議会など）への支援や足湯の設置、菖蒲園の見直しなど、関連施設の充実化を図りエリア全体の魅力を高めること。

### 2. 《観光部署の強化》

総合支所と本町の観光施策を強化するため、地域振興課や経済建設課、さらには本庁との連携を強化して縦割りのデメリットを解消する組織づくりや、観光部署の効率化と強化を図ること。

### 3. 《観光特派員の設置》

交流人口の拡大は待っているだけでは進まない。町外に向けてPR活動ができる人、あるいは意欲ある住民に対し、観光特派員（大使）として任命することで住民が観光振興に協力できる様々な仕組みづくりや広報活動を進めること。

## II 地域力向上部門

### 1. 《忠類検定による地域学づくり》

忠類地域における歴史や産業、観光などの様々な資源を、町外は勿論、住民自らも学び活かせるよう、オール忠類の活きた情報を提供できるように各分野において作成されている資料や観光案内書などを一本化し、忠類検定づくりに結びつくものとして取り組んでいただきたい。

### 2. 《ゆり根のブランド強化と販売強化》

忠類のゆり根は全国的に知名度も高く、高品質のゆり根は高く評価されるとともにブランドの高さを維持している。ここでその知名度やブランド力を落とすことなく、食文化としての活用や付加価値化を進め、特産として常に提供できるよう道の駅周辺を拠点としたゆり根の販売、郷土料理の開発などを進めること。

## III 定住部門

### 1. 《定住対策と就労支援》

地域振興の要は交流人口の拡大はもとより若者の定住であり、若者が地域に定着して働くこと。これらの支援として、農商工業における後継者・新卒者などに対する住宅対策の充実や過疎地域を背景とした就労支援の強化に取り組んでいただきたい。